

2018. 10. 31.

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

## ★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

### 【山口県子ども読書支援センター行事】

#### ★幼児のためのおはなし会

○日時：平成30年11月6日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《10月のおはなし会で使った本》

『まんまるだあれ』 いまもりみつひこ/文・切り絵 アリス館 2018

『ことりちゃん』（紙芝居） 武鹿悦子/脚本 イスジン/絵 童心社 2013

『ぼんちんぱん』 柿木原政広/作 福音館書店 2014

『ぼくのくれよん』（大型絵本） 長新太/おはなし・え 講談社 2003

#### ★第2回学校図書館セミナー

○日時：平成30年11月20日（火）13：30～16：00

○場所：山口県立山口図書館 第2研修室

○講師：高見 京子氏（全国SLA学校図書館スーパーバイザー）

○内容：「YA(ヤングアダルト)世代と本をつなぐ図書館活動のアイデア」～ビブリオバトルも体験しよう～

○対象：県内の教諭、司書教諭、学校司書、学校図書館担当事務職員、市町教育委員会指導主事、学校図書館ボランティア、公共図書館職員等 ○持参物：面白いと自分が思う本1冊 ○定員：60名（要申込み・先着順）

○申込方法：11月6日（火）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

#### ★第3回新刊児童書閲覧会

○日時：平成30年12月1日（土）13：30～15：30 ○場所：山口県立山口図書館 第2研修室

○対象：公共図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア等 ○定員：40名（要申込み・先着順）

○申込方法：平成30年11月30日（金）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：[a50401@pref.yamaguchi.lg.jp](mailto:a50401@pref.yamaguchi.lg.jp)）

### 【新刊紹介】 価格は消費税抜き

#### <絵本-3, 4歳から>

『めん たべよう!』 小西英子/さく 福音館書店 2018.9 ¥1500

きょうは何を食べようか。うどんやさんでは何食べたい？パスタなら何がいい？お蕎麦屋さんはどうかな？ラーメン屋さんもいいよね。各専門店に入ってみようよ…。子どもたちが大好きな26種類の麺料理が、器も盛り付けも美しく、湯気も感じられるほど美味しそうに描かれている。家庭でも集団への読み聞かせでも楽しめる、大判の食べ物の絵本。

#### <絵本-5, 6歳から>

『すきま地蔵』 室井滋/文 長谷川義史/絵 白泉社 2018.9 ¥1300

小学校の帰り道に、誰かに呼び止められたぼく。声の主は、ビルに挟まれ、そのすきまから出られなくなったお地蔵さん一家だった。お地蔵さんたちは、昔話で有名な「笠地蔵」の子孫らしい。すきまに挟まれて出張できないお地蔵さんたちの代わりに、人助けを頼まれたぼくは、町中を駆けめぐって大忙し。女優でもある作者による文章と、ほのぼのとした絵がよくマッチした絵本。

『きのこレストラン』 新開孝/写真・文 ポプラ社 2018.9 ¥1500

真っ赤なきのこ「タマゴタケ」が、森の中で傘を広げる。傘の裏側の柔らかいひだを食べると、早速小さな虫が集まってくる。胞子を放出してくずれはじめたタマゴタケには、違う虫たちが次々と集まってくる。きのこは虫たちのレストラン。きのこを食べる「きのこむし」たちと、森の枯れ木などの分解者であるキノコの役割を美しい写真で紹介したノンフィクション絵本。

#### <絵本-小学校低学年から>

『あめだま』 ベクヒナ/作 長谷川義史/訳 ブロンズ新社 2018.8 ¥1500

一緒に遊ぶ友達がおらず、いつも一人でビー玉遊びをしているドンドン。文房具店で手に入れた、色とりどりのあめだまを口に入ると、不思議な声が聞こえてきた。年老いた飼い犬の声、口うるさい父親の声、亡くなったおばあちゃんの声…。みんなの心の声を聞くうちに、ドンドンの心にも変化が…。ドンドンの心の成長とラストの紅葉の美しさが心に染みる、韓国作家の絵本。

#### <絵本-小学校中学年から>

『この計画はひみつです』 ジョナ・ウィンター/文 ジャネット・ウィンター/絵 さくまゆみこ/訳 鈴木出版 2018.6 ¥1500

1943年3月、米国政府は優秀な科学者たちをニューメキシコの砂漠のへんぴな町に集め、ある研究に取りかかせた。それは秘密の計画で、科学者たちが何を作っているのか、町の人たちは誰も知らなかった。1945年7月、最初の核実験が行われ、その3週間後、ヒロシマとナガサキに原子爆弾が落とされた。アメリカで原子爆弾がつくられるまでを淡々とした言葉で描いた絵本。

#### <絵本-小学校高学年から>

『わたしたちだけのときは』 デイヴィッド・アレキサンダー・ロバートソン/文 ジュリー・フレット/絵 横山和江/訳 岩波書店 2018.9 ¥1400

私のおばあちゃんはカラフルな服が好きで、長い髪を編み、大叔父さんと仲良しだ。でも、おばあちゃんたちは子どもの頃、家族から離されて家から遠い学校に行かされ、長い髪を切られ、部族の言葉クリー語で話すことを禁じられたんだって。どうしてなの…。孫娘の問いに答える形で、カナダ先住民への同化政策の歴史を描く。2017年度カナダ総督文学賞（児童書部門）受賞作。

#### <読み物—低学年から>

『ねこの町の本屋さん ゆうやけ図書館のなぞ』 小手鞠いり/作 くまあやこ/絵 講談社 2018.9 ¥1200

ねこの町のおもて通りで、新しくこどもの本の本屋さんを開いたねこのクララさん。お店は新築、本も新品でわかりやすく並べてあるのに、ちっともお客さんが来ない。友だちのリリアさんによると、子ども達はみんな、隣の犬の村の図書館へ行っているという。その図書館が気になったクララさんが、早速見に行ってみると…。ペン描きの挿絵も明るい「ねこの町、犬の村」シリーズ。

#### <読み物—中学年から>

『おなべの妖精一家 ワロンの料理をめしあがれ!!』 福田隆浩/作 サトウユカ/絵 講談社 2018.7 ¥1250

2年前にパパを亡くし、ママと実家で暮らしていた小4のはるかばは、祖父とママのけんかをきっかけに、ママと家を出ることに。しかし、新居の怪しげな洋館には、鍋にやどる妖精の「ワロン家」一族が住み着いていて。仕方なく共に助け合って生活していくことにしたが、妖精が作るおいしい料理は、人間たちの心をもみるみるステキに変えていく…。「おなべの妖精一家」シリーズ1作目。

#### <読み物—高学年から>

『伝説のオリンピックランナー—いだてん金栗四三（かなくりしろう）』 近藤隆夫/著 汐文社 2018.9 ¥1500

今から100年以上前、日本には「いだてん（足の速い神）」に例えられた伝説のオリンピックランナーがいた。1912年（明治45年）の第5回ストックホルムオリンピックに、日本人で初めて20歳でマラソン競技に出場。マラソンの世界記録を3度破り、後には「箱根駅伝」を発案した、2019年NHK大河ドラマ「いだてん」の主人公、金栗四三の功績を紹介する。

『流星と稲妻』 落合由佳/著 講談社 2018.9 ¥1400

熊のような巨体の善太と東京からの転校生の宝は、共に同じ剣道教室に通う小6の男の子。初めての試合で、小柄でおどおどしてばかりの宝に負けた善太は、宝をライバルとして意識することに。また、宝も父親との関係に苦しみながらも善太との再勝負にむけて剣道の稽古を続ける。激しい稲妻のような善太と、しなやかな流星のような宝。勝負は…。剣道を通じた少年の成長物語。

#### <読み物—中学生から>

『風に恋う』 額賀滯/著 文藝春秋 2018.7 ¥1600

かつての名門高校吹奏楽部に、黄金時代の部長がコーチとして戻ってきた。高校では吹奏楽をやらないつもりだったサクセス奏者・基（もとぎ）は、3年の玲奈たちともう1度全国大会への挑戦を始める。改革の手始めにコーチは1年生の基を部長に任命。進学校として受験や勉強との両立に苦しみながら彼らの手にしたものは…。「ブラック部活動問題」に取り組んだ、若手作家の作品。

『君だけのシネマ』 高田由紀子/作 PHP 研究所 2018.8 ¥1500

史織のため、という母の言葉に縛られ言いなりにになっていた「わたし」。中学生活にも限界をきたした「わたし」は、過干渉の母を新居に残し、中2の春、転勤になった父とともに佐渡島へ。自宅で小さな映画館「風のシネマ」をオープンした祖母の生き方や、個性的なクラスメイトとの出会いの中で「自分らしさ」に気づいていく少女の物語。「わたしたちの本棚」シリーズ。

#### <ノンフィクション—小学校低学年から>

『こどもぼうさい・あんぜん絵じてん』 渡邊正樹/監修 三省堂 2018.9 ¥2400

交通安全、身のまわりの事故や火事、自然災害や犯罪から身を守る方法など、安全、防災、防犯の様々な事柄について取り上げるこども絵事典。すべてのテーマを見開き1ページで取り上げ、本文はひらがな・カタカナで表記し、イラストをメインにわかりやすく解説。各テーマには、大人向けの情報も補足。幼稚園・保育園や小学校で行われる防災教育・安全教育で活用できる1冊。

#### <ノンフィクション—小学校中学年から>

『しゅわしゅわ村のゆかいなのりもの』 くせさなえ/作・絵 偕成社 2018.9 ¥1800

しゅわしゅわ村には、乗り物がいっぱい!「自転車で乗ってどこへ行くの?」「家」、「車に乗ってどこへ行くの?」「お店」、「電車に乗ってどこへ行くの?」「川」と、単純な繰り返しで、絵を見て楽しみながら、手や体や表情で表す言葉「手話」を学ぶ絵本。巻末には、手の動かしかたのコツも紹介。見返しには指文字の解説あり。「手話ではなそう」シリーズ第4冊目。

#### <ノンフィクション—小学校高学年から>

『移民や難民ってだれのこと?』 マイケル・ローゼン/アンネマリー・ヤング/著 小島亜佳莉/訳 創元社 2018.9 ¥2200

なぜ移民や難民が生れるのか、移民や難民と呼ばれている人はどういう人たちなのか、世界はこの問題にどのように取り組んでいるのか等を、様々な体験談とともに紹介する。多文化・多民族の共生を探り、人権にかかわる複雑な諸問題に取り組むイギリスで生まれた、オールカラー学習書。本文総ルビつき。「国際化の時代に生きるためのQ&A」シリーズ、全5巻。

#### <ノンフィクション—中学生から>

『不登校でも大丈夫』 末富晶/著 岩波書店 2018.8 ¥800

「不登校児だった過去は幸福な人生につながる必要な時間だった」小3から約7年間を不登校児として過ごし、30代の現在はエッセイスト・生け花アーティストとして活動する著者が、生き難さを抱える子ども達に自身のこれまでを語る。不登校という状況をあのころの自分がどう感じていたのか、一つ一つの過去を確認することで、学校に行かない生き方を肯定する。岩波ジュニア新書。

『あなただけの人生をどう生きるか 若い人たちに遺した言葉』 渡辺和子/著 筑摩書房 2018.8 ¥780

修道者・教育者の渡辺和子が、ノートルダム清心女子大学学長時代に学生たちに向けて語った入学式や卒業式等での講演を精選・収録する。大学で学ぶべきものは何か、大学での学びを人生に活かすとは。厳しい現代社会へ旅立つ若者に対し、生涯を幸せに生きるために、美しい人生を送るために、愛に満ちた力ある言葉を贈る。人生を考える珠玉のメッセージ集。ちくまプリマー新書。

#### <研究書>

『絵本のこと話そうか 対談集』 松田素子/編 KTC中央出版 2018.8 ¥1900

28年前の対談を、今の時代を生きる人たちの羅針盤として手渡すべく復刊。長新太、五味太郎、林明子、糸井重里、高橋源一郎、谷川俊太郎…。絵本作家・小説家・詩人・編集者などによるリレー対談によって、「絵本」を軸にした、作り手たちの「こころざし」や「根っこ」が示される。『素直にわがまま』（偕成社1990年刊）の改題。編者は山口県生まれ。著作も多数あり。